

室岡健志『行動経済学』

(日本評論社, 2023 年刊)

補足説明・正誤情報一覧

2025.6.17 ver.2.7

本書にて、下記の通り補足説明と訂正がございます。ご指摘をいただいた皆さまには深く御礼申し上げます。ここにお詫びして訂正いたします。なお、以下の表では本文の補足説明も記載しています。

補足説明

ページ等	誤	正
14 ページ, 下から 10 行目 【補足説明】		【補足説明】 ここで、選好の記号 $u \succeq_t u'$ は、「この個人は t 期において効用ベクトル u を効用ベクトル u' より同等以上に好む」ことを意味している。
27 ページ, 下から 2 行目 【補足説明】		【補足説明】 なお、最終的な還元額は（個人が同質的な場合） $T = t_x x$ となるが、以下では個人の選択 x は最終的な還元額 T に依存しないものとして分析する（一般均衡理論における代表的個人のモデルなどをイメージされたい）。
34 ページ 8 行目 【補足説明】		【補足説明】 なお、ここで a は実数ではなく「全員に何らかの値を強制的に選択させる」というまったく別の選択肢として定義していることに注意されたい。あるいは（34 ページ、下から 8 行目で説明するように） a を（全員が何らかの値を自発的に選択する）非常に大きな実数と設定しても、分析上は同じ結果となる。
47 ページ 2 行目 【補足説明】		【補足説明】 なお、Dan Ariely は複数の研究不正が指摘されているが、2023 年 8 月時点で筆者が知る限りでは本論文についてはそのような指摘はされていない。

154 ページ， 下から 14 行目 【補足説明】		【補足説明】 補足として，以下では $\int_0^{\frac{1}{2}} q_0 dq_0 + \frac{1}{2} = \frac{5}{8}$ という式の左辺について説明する． 左辺第 1 項は q_0 が $1/2$ 未満の信念をもつ人のうち q_1 が 1 となる人の割合である（行動により成功確率 q_0 で信念が $q_1 = 1$ にアップデートされ，かつここでは q_0 は一様分布のため，上記の積分によって計算される）． 左辺第 2 項は q_0 が $1/2$ 以上の信念をもつ人のうち q_1 が $1/2$ 以上となる人の割合である（行動により信念がアップデートされないため全員が対象となる）．
---------------------------------	--	---

第 1 版版第 2 刷（2023 年 10 月 30 日発行）時点の訂正

* 2 刷時点の訂正は，1 刷にも必要です

ページ等	誤	正
14 ページ， 下から 2～4 行目	精確には，任意の t 期までの効用の流列が同一である $(u_1 = u'_1, \dots, u_t = u'_t)$ 2 つの効用ベクトル $(u_1, u_2, \dots), (u'_1, u'_2, \dots)$ および任意の t 期において以下が成立するとき	精確には，任意の t 期においてその期までの効用の流列が同一である任意の 2 つの効用ベクトル $(u_1, u_2, \dots, u_t, u_{t+1}, \dots), (u'_1, u'_2, \dots, u'_t, u'_{t+1}, \dots)$，ただし $u_1 = u'_1, \dots, u_t = u'_t$，について以下が成立するとき
27～37 ページ (2.8 節，2.9 節)		【第 1 刷から，以下の点を訂正しました】 3 期間を「1，2，3 期」としていた設定を，「0，1，2 期」に変更．それにあわせて本文も一部修正．
34 ページ， 下から 5 行目	第 0 期における総効用	第 1 期における総効用
41 ページ， 上から 5 行目	それぞれ $\frac{1}{\beta}$ および $\frac{1}{\beta}$ で括る	それぞれ β および β で括る
69 ページ， 下から 5 行目， 7 行目の式	$\hat{U}_1(S^H) = (1 - \alpha)u(1, s_2) + \alpha u(1, s^H) = \dots$ $\hat{U}_1(S^L) = (1 - \alpha)u(1, s_2) + \alpha u(1, s^L) = \dots$	$\hat{U}_1(S^H) = (1 - \alpha)E[u(1, s_2)] + \alpha u(1, s^H) = \dots$ $\hat{U}_1(S^L) = (1 - \alpha)E[u(1, s_2)] + \alpha u(1, s^L) = \dots$
89 ページ， 1～2 行目	任意の z について $u(z) - u(w) < u(w) - u(w - 10000)$ すなわち $\frac{1}{2}u(z) + \frac{1}{2}u(w - 10000) < u(w)$ が成り立つため	任意の z について $u(w + z) - u(w) < u(w) - u(w - 10000)$ すなわち $\frac{1}{2}u(w + z) + \frac{1}{2}u(w - 10000) < u(w)$ が成り立つため
101 ページ， (6.4) 式のす	仮定 π_3 と π_4 より $\pi(0.25) > 0.25$ のため，(6.4) 式は $\pi(0.5) \leq 2.5 \times 0.25 = 0.625$ であり，ここで再度	仮定 π_3 と π_4 より $\pi(0.25) > 0.25$ かつ $\pi(0.5) < 0.5$ のため，$\pi(0.5) < 0.5 < 0.625 = 2.5 \times 0.25 <$

ぐ下の段落	仮定 π_3 と π_4 より $\pi(0.5) < 0.5$ のため、(6.4) 式は成立する.	$2.5\pi(0.25)$ であることから、(6.4) 式は常に成立する.
134 ページ, 下から 3 行目	総価値は、確率加重関数 $w(\cdot)$ を直接用いる	総価値は、確率加重関数を直接用いる 【 $w(\cdot)$ 】をトル
134 ページ, 注 1	精確には、くじ $\mathcal{L}_p''$ はくじ $\mathcal{L}_p'$ に first-order stochastically dominate されている.	精確には、くじ $\mathcal{L}_p'$ はくじ $\mathcal{L}_p''$ を first-order stochastically dominate している.
167 ページ, 上から 9~11 行目と 上から 14 行目	$s^* = \begin{cases} 0.5 & \text{if } \beta_1 > 0.5 \\ s \in [0, 0.5] & \text{if } \beta_1 = 0.5 \\ 0 & \text{if } \beta_1 < 0.5 \end{cases}$ … (中略) … は ($\beta_1 = 0.5$ という特定のパラメータの場合を除き) 説明できない……	$s^* = \begin{cases} 0.5 & \text{if } \beta_i > 0.5 \\ s \in [0, 0.5] & \text{if } \beta_i = 0.5 \\ 0 & \text{if } \beta_i < 0.5 \end{cases}$ … (中略) … は ($\beta_i = 0.5$ という特定のパラメータの場合を除き) 説明できない……
170 ページ, 上から 5 行目	$\sigma_i = \rho_i = \frac{1}{2}$. このとき $u_i(x) = x_i + x_j$.	$\sigma_i = \rho_i = \frac{1}{2}$. このとき $u_i(x) = \frac{x_i + x_j}{2}$.
178 ページ, 図 11.1 の縦軸 ラベル	配分者が選択した配分割合 (s)	それぞれの s を選択した配分者の割合
205 ページ, 下から 4 行目	また、消費者が無差別の場合	また、消費者が契約するか否か無差別の場合

第 1 版版第 1 刷 (2023 年 3 月 25 日発行) 時点の訂正

ページ等	誤	正
15 ページ, 下から 5 行目	を最大化するものとする	をもつものとする
17 ページ, 上から 1 行目	と、「今すぐもらえるおやつを選ぶ場合」の	と、「1 週間後の同じ時間帯に、今すぐ (その時にすぐ) もらえるおやつを選ぶ場合」の 【「1 週間後の同じ時間帯に、」および「(その時にすぐ)」を挿入】
17 ページ, 注 6	より詳細な実験デザイン	関連した異なる実験デザイン
17 ページ, 注 8 の最後の 行	第 1 期の効用を $\beta\delta^2$ で割り引いて評価している.	第 1 期の効用を $\beta\delta^{-2}$ で割り引いて評価している.
17 ページ, 注 8 の最初の 一文	ただし、総効用関数が無限大に発散することを防ぐため、無限期において u_t が 0 ではない可能性がある場合は $\delta \in (0, 1)$ とする.	【この一文は削除】
24 ページ, 下から 8 行目	この論文では「普通の貯蓄口座と同じだが、一定の条件を満たさないとお金が引き出せない」という	この論文では「金利や手数料などの条件は普通の貯蓄口座と同じだが、一定の条件を満たさないと

	コミットメント口座	お金が引き出せない」というコミットメント口座 【「金利や手数料などの条件は」を挿入】
28 ページ, 6～7 行目	また、以下では常に内点解を仮定する.	【この一文を、27 ページの最後の段落の末尾に移動】
31 ページ, 中央辺り	セルフコントロール問題のある個人 2 の長期的な効用は	セルフコントロール問題のある個人 B の長期的な効用は
34 ページ, 下から 8 行目	上記の選択強制方式はデフォルトの積立率を $a > d - \sqrt{c/\beta\delta}$ に設定する	上記の選択強制方式はデフォルトの積立率を $a > \bar{s} + \sqrt{c/\beta\delta}$ に設定する
50 ページ, 上から 1 行目	議論の簡略化のため $\alpha > \beta$ を仮定する.	議論の簡略化のため $\alpha \geq \beta$ を仮定する.
52 ページ, 上から 12 行目	ここで $\alpha > \beta$ の仮定のもとでは	ここで $\alpha \geq \beta$ の仮定のもとでは
62 ページ, 注 15 の最後の行	$\hat{a}_t^s(a_1, a_2, \dots, a_{s-1}, a_s, \hat{a}_{s+1}^s, \dots, \hat{a}_{t-1}^s)$	$\hat{a}_t^s(a_1, a_2, \dots, a_{s-1}, a_s, a_{s+1}^s, \dots, a_{t-1}^s)$ 【2 カ所、ハット (^) を削除】
87 ページ, 図 5.1 内 (中央, 上部辺り)	$u'(w + 1000)$	$u'(w + 1100)$
88 ページ, 上から 10 行目	この個人はくじ p を	この個人はくじ $\mathcal{L}_p$ を 【 p を $\mathcal{L}_p$ に変更】
110 ページ, 下から 10 行目	かつ損失回避より心理的な損失の方が大きくなっている.	かつ損失回避により心理的な損失の方が大きくなっている. 【「に」を挿入】
119 ページ, 注 16 の 1 行目	なお、 $\eta(\lambda - 1) \geq 1$ の場合	なお、 $(1 - q)\eta(\lambda - 1) \geq 1$ の場合 【「 $(1 - q)$ 」を挿入】
154 ページ, 下から 14 行目	個人の割合は約 $\int_0^{\frac{1}{2}} q_0 dq_0 + \frac{1}{2} = \frac{5}{8}$ となる	個人の割合は $\int_0^{\frac{1}{2}} q_0 dq_0 + \frac{1}{2} = \frac{5}{8}$ となる 【「約」を削除】